

インキュナブラの複製 (ファクシミル) について

折 田 洋 晴

〈本物とそっくりのものを、短時間で大量に作ること〉……グーテンベルクが印刷術を発明した目的もここにあったといわれる。彼の技術を使うと高価な聖書を、2年間で180部(推定)作ることができた。20人がかりで作成したとして、これは写字生が手で筆写する方法の1人当たり8倍以上のスピードであった。これにより、聖書の価格は非常に安くなった。つまり、グーテンベルクは写本の複製を彼の技術により、安価で大量に作ることに成功したわけである。この印刷術を用いて1500年12月31日までに印刷された書物をインキュナブラと呼ぶのであるが、初期のインキュナブラは、写本の複製という側面が非常に強い。活字の書体は写本をそっくり倣ったもので、書物の内容や印刷地により様々な書体の活字が彫られ、見かけ上は写本と区別をつかなくすることが、印刷術普及の条件であった。15世紀後半の50年間に、ヨーロッパの約250の都市に登場した印刷所の数は1,100以上に上り、少なくとも2,000組の活字父型が彫られたと思われる。

印刷術のメリットが受容されるにしたがって、書物の意匠は標準化されて行く。16世紀後半から17世紀に現在の書物のスタイルが確立するし、タイトル・ページの様式化、ローマン体の定着、ページ付け・索引の付与、小型化等が普通となる。一方、印刷技術もグーテンベルクの活字方式である凸版だけでなく、凹版である銅版エッチングによる挿図を入れるなど、ヴィジュアルな要素も重視された。18世紀末に発明された平版であるリトグラフ(石版印刷)は、さらに表現力を高め、美術的な書物も出現するようになる。こうしたなかで、写真技術を印刷に応用することで、質の高い複製物が安価に作成できるようになる。19世紀なかば以降に実用化されたコロタイプやフォト・リト・オフセット印刷は複製物の作成能力を飛躍的に高めることとなった。

こうした中で、古い書物の複製を作ることは、どのようにしてなされてきたのであろうか。最も古い複製は1583年、インゴルシュタットでD. Sartoriusが刊行した *Liber precationum*…というカール2世の写本祈禱書の複製⁽¹⁾であるといわれており、1626年には、プランタンの後継者が、*Martyrologium Hieronymianum*の複製⁽²⁾を刊行したが、さらに意図的に複製を刊行したのがロンドンのロクスバラ・クラブである。このクラブは、ロクスバラ公爵(1740-1804)の蔵書売立を機に、書誌学者 T. F. Dibdin (1776-

1847) や愛書家 G. J. Spencer (1758-1834) 伯爵が中心となって、貴族31名を会員として1812年に設立された。このクラブは、非常に稀な^{レズ}書物の複製を小部数作って会員に配ることを目的にしており、その中のあるものは、複製からの複製が作られたりもした。例えば、1498年、ウィンキン・デ・ウォルデの刊行した *Informacon for pylgrymes unto the holy londe* は、1824年にロクスバラ・クラブが複製を作ったが、部数は35部に過ぎず、1893年には改めてロンドンの Lawrence & Bullen が複製を350部刊行した。さらにその複製が1978年にニューヨークで刊行されたりしている。ちなみに、我が国での複製刊行は、大正7年(1918)6月に市島謙吉、和田萬吉、坪内逍遙等を同人として結成された稀書複製会が木版を再刻するやり方で、米山堂(山田清作)から刊行したものが有名である。

複製作りを書誌学研究に取り入れたのが、ウィリアム・キャクストンの研究家 William Blades (1824-90) である。彼は活字を比較することでキャクストンの業績全体を明らかにし、その成果は *The life and typography of William Caxton* (1861-63) に実った。この本の作成にあたって、彼はキャクストンの活字の複製を彫り、それを同書の図版で利用した。さらに、その活字を用いて、Blades, East & Blades という出版者名で (Blades の父は Blades and East という名で印刷業を営んでいた)、キャクストンの *Gouernayle of helthe* (1858) や *Moral prouerbes* (1859) などの複製を刊行した。このような活字父型を複製して印刷する方法は、タイプ・ファクシミルと呼ばれている。この方法で相当数の複製物が作られ、ロクスバラ・クラブの会員であった愛書家 T. J. Wise (1859-1937) は、偽書まで作成した。欠葉のある稀親本は、このタイプ・ファクシミルを用いて完全本に見せかけられたものもあるという。

インキュナブラ研究における複製の利用は、Henry Bradshaw (1831-86) や彼の

Abiela de anathoc. **M**obonuai de
vlathj. **S**elmon ahoytes. **M**acharai
necophaites. **E**loph filius baana:
et ipe necophaites. **M**rai filius ubai:
de gebeaty filiorum beniamin. **B**anai
pharatonites. **M**jedai de torrene gaaf.
Albialbon artachites. **M**zmauath de
bronni. **M**iaba de salboni. **M**ilijialen:
iouathan lauma de orodi. **M**aiam
filius facar acothites. **M**ilelety filius
aalbai filij maachai. **M**eliam filius

140 (147)

グーテンベルクは最初147の活字を用いて40行で印刷を始めたが、あまりに多くの紙が必要となることに気づき、140に活字のボディを縮めて42行で印刷を続けた。どちらも版面は縦29.4cmである。

図 1

後を受けた Robert Proctor (1868-1903) 等の博物学的方法による活字研究がその中心である。インキュナブラの半数以上にはコロフォン(奥書)が無かったり、あっても印刷者名、印刷年が明記されていない。これらの印刷物のインプリント(出版事項)を推定することは、インキュナブラの同定に欠かせず、インキュナブラの目録記入に必須のことからであるが、彼らはインキュナブラの活字を詳細に比較することで、個々のインキュナブラの印刷者を同定していった。その成果が Proctor の *An index to the early printed books in the British Museum... to 1500...* (1898-1903) である。大英博物館はこの方法により印刷者の国・都市・印刷者名・印刷年の順に記入を並べたインキュナブラ目録

(通称 *BMC*) を刊行し始め (1908年)、巻末には各印刷者の活字体の複製を付録とした。活字は20行分の長さを mm 単位で計り、その大きさを活字の識別に用いている。例えば、グーテンベルクの『42行聖書』に用いられた活字(図1)は140と表記され、印刷者名として *Printer, or printers, of the 42-line Bible and 30-line Indulgence* を用いている。グーテンベルク聖書の部分的複製が図1のように巻末に載せられ、同目録では、グーテンベルクがそれ以前に彫ったといわれる他の *DK type* や *I 31 type* 等々による印刷物は *Printer, or printers, of the 31-line Indulgence and 36-line Bible* とし、前に排列されている。

このように、活字を分類するという作業は、ドイツのインクユナブラ学者 *Konrad Haebler* (1857-1946) の研究 *Typenrepertorium der Wiegendrucke* (1905-24) によって大成された。1925年から刊行が始まった集大成的なインクユナブラ目録 *Gesamtkatalog der Wiegendrucke* (通称 *GW*) は、各インクユナブラに対し、その活字を *Typenrepertorium* の記号で記すことにしている。活字の複製を集めて出版することは、オークションで有名になるロンドンの *S. L. Sotheby* (1805-61) が1845年に *The typography of the fifteenth century* で行なっているが、インクユナブラの活字を集成する作業は、*J. W. Holtrop* の *Monuments typographiques des Pays-Bas, au quinzième siècle* (1868) によって始められ、*E. Spanier* が石版印刷で活字の複製を作成した。1890年には *O. Thierry-Poux* の *Premiers monuments de l'imprimerie en France au XV^e siècle* が、1896年には *E. G. Duff* の *Early English printing* が、そして1900年から1913年にかけては *Type Facsimile Society* により *Specimen of early printing types* が刊行され、多くの活字見本がインクユナブラ研究に使えるようになった。ドイツでは1907年に *Gesellschaft für Typenkunde des XV. Jahrhunderts* が設立され、同協会は1938年までに2,000以上の活字図版を出版した。一方、次々と発見される初期印刷物の同定には、その複製を作成して様々な比較を行なう必要があり、部分的な複製だけでなく、書物全体の複製物も多数刊行されるようになった。

愛書家向けだけではなく、歴史研究用にも全文の複製を刊行することは、1880年代にイタリアの古文書学の分野で始まり、*Archivio paleografico italiano* や *Codices e Vaticanis selecti phototypice*…といった叢書が刊行されたし、『ケルズの書』や『グローの書』、あるいは『ベアトウス黙示録』をはじめとして、美しい写本の複製もこれまで数多く刊行されてきた。また、美術史研究向けにレオナルドやデューラー等の作品・手稿の複製も作成されている。インクユナブラもまた複製の対象であり、グーテンベルクの『42行聖書』をはじめとして、著名な稀覯本である、ケタムの *Fasciculus medicinae* やコロンナの *Hypnerotomachia* 等の複製本が刊行されているし、珍しいインクユナブラの複製を集めた *K. Sudhoff* の *Zehn Syphilis-Drucke aus den Jahren 1495-98* (1924) や *E. Picot* の *Recueil de pièces historiques imprimées sous le règne de Louis XI* (1923) のような著作もある。

ところが、どれくらいインクユナブラの複製が作られているかを調べようとすると、

全容を知ることのできる書誌はまだ存在しない。過去に Crous, E. 'Faksimilia von Wiegendruckern', *Zeitschrift für Buchkunde* 1 (1924) pp.148-153、及び Störmer, J. P. 'Bibliographie der Faksimiledrucke von Inkunabeln, 1918-65,' Eyb, Albrecht von *Ehebüchlein ; Faks. de...1472* (Wiesbaden,1966) pp.139-185. という二つの試みがあるが、網羅的な書誌とは言いがたい。現在、英国図書館で作成中のオンライン・インキュナブラ総合目録 *ISTC (Incunabula Short Title Catalogue)*、あるいは、その CD-ROM 版である *IISTC (Illustrated ISTC on CD-ROM)* は、最も多数のインキュナブラを収録する目録であり、さらに、書誌典拠 (Bibliography) のフィールド

オリジナルの刊行年	複製版の数
1451~60	11
1461~70	28
1471~80	134
1481~90	163
1491~1500	200

オリジナルの判型	複製版の数
f ₀	170
4 ₀	186
8 ₀	14
Bdsde	175

オリジナルの印刷国	複製版の数
ドイツ	276
イギリス	57
スペイン	53
イタリア	50
フランス	39
その他	36

に、複製に関する注記がなされている。このデータ・ベースを検索すると、520点の複製版の存在がわかり、その内訳は左の表の通りである。本号には、国立国会図書館の所蔵する複製インキュナブラ目録を掲載するが、同館の所蔵する複製は、上記の520点という数字からみると決して多いとは言えない。同目録は230点の複製インキュナブラを収録しているが、うち157点は一枚物の複製であり、*IISTC* で複製の注記がなされているものは70点弱にすぎない。しかし、国内の大学図書館等にはさらに多くの複製が所蔵されている可能性があり、それらを掘り起こすためにも「国立国会図書館所蔵複製インキュナブラ目録」の編集を試みた。

国立国会図書館にはインキュナブラより古い西洋写本の美しい複製も多く所蔵

されており、「国立国会図書館所蔵複製西洋写本目録」の編集も予定している。

- (1) *Liber precationum, quas Carolus Calvus Imperator...sibi Adolescenti pro quotidiano usu, ante annos viginti quinque septingentos in unum colligi et literis scribi aureis mandavit.* Ingolstadium, 1583.
- (2) *Martyrologium S. Hieronymi, quale in membranis epternacensibus ante annos nongentos scriptum servatus et anno 1626 aeri incisum usque ad Julium habetur in officina Plantiniana.* Antverpiae, 1626-33.

(おりた ひろはる 収集部外国資料課)